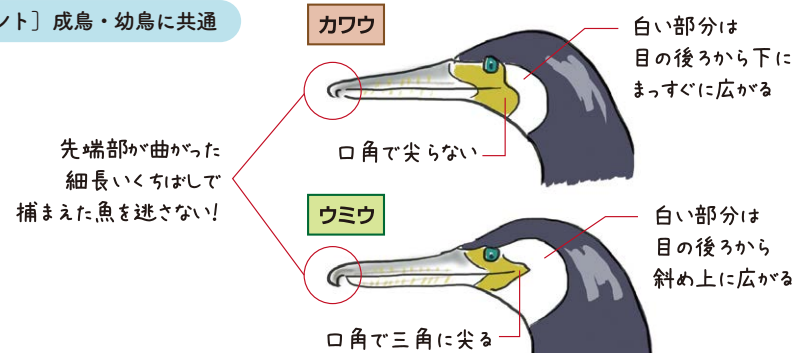


カワウ(川鵜)とウミウ(海鵜)の見分け方

日本にはウミウ、カワウ、ヒメウ、チシマガラスの4種のウ類が生息していますが、原鵜では「ウミウ」で漁を行っています。海で育ったウミウは、カワウよりもおとなしく、身体が大きく、体力があります。

〔頭部における識別ポイント〕成鳥・幼鳥に共通



〔全身の識別ポイント〕成鳥の場合



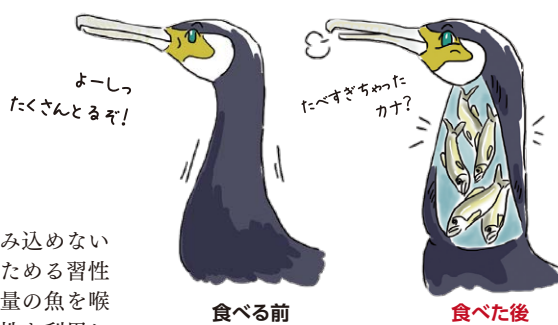
※羽の表面の色彩は光の状況により異なって見える場合があります

近年急激に個体数を増やしているカワウによる漁業被害が全国で深刻化。そのため環境省はカワウを狩猟鳥に指定し、繁殖抑制の対策が進められています。一方、一般保護鳥に指定されているウミウは捕獲が禁止されており、鵜飼のウミウは日本で唯一捕獲を許可されている茨城県日立市から全国の鵜匠のもとへ空輸されています。

海鳥「ウミウ」の習性を深掘り!

喉が大きい

潜して魚を捕らえる鵜は水中で魚を呑み込めないため、魚を丸飲み(鵜呑み)にして喉にためる習性があります。鵜の喉は大きく、一度に大量の魚を喉に貯めることができ、鵜飼はこの鵜の習性を利用しています。



目がとても良い

「鵜の目鷹の目」という諺があるように、鵜はとても目が良く、水中でも鮮明に獲物を見ることが出来ます。

潜水が得意

実は、鳥類でありながら空を飛ぶことよりも潜水の方が得意なんです。

ウミウは水中を1分近く潜り、水深20mまで潜水します。潜る時は翼を開かず、首から水中にスーッと滑るような動作で潜っていきます。翼が小型のため、水の抵抗が少なく、羽毛も浸水しやすい構造になっているため、素早く潜水することができるのです。水かきを使う脚潜水(=ドルフィンキック)で泳ぐ鵜は、長い尾を舵に、巧みに潜水します。

大事な羽干し

普通の水鳥の羽毛は撥水性が高く水をはじき、潜水中も空気の層が身体を覆い、比重を軽くするので、その分潜水にエネルギーを使いますが、鵜の羽毛は撥水性がないので、水中での抵抗が少なくすむのです。良く鵜が羽を広げているのは、羽を乾かしているのです。



参考資料:筑後川の鵜飼 -鵜匠と鵜の絆-



杷木・原鵜の筑後川で行われる鵜飼について、鵜飼小屋で鵜匠の梶原さんに話を聞いた。

鵜飼は、鵜を操る鵜匠と、鵜舟を進める船頭の二人一組で行われる。技は体で覚えることが多く、身につけるまでに時間がかかる。梶原さんによると、手縄さばきなど、鵜匠の技には約2年、竿1本で鵜舟を操る船頭の「竿さし」には約3年かかるという。そのため、船頭が先輩、鵜匠が後輩のような関係になる。

鵜飼を観客に披露する際、鵜匠は観客の反応も見ながら、それ以上に鵜を見ている。

やんちゃな鵜、おとなしい鵜、手のかかる鵜。8羽ほどの鵜は、それぞれ性格が違う。鵜匠は鵜ののどのふくらみを確かめ、頃合いを見て鵜舟に引き上げ、魚を吐き出させる。

近年、川の流れの変化などにより、鵜飼を続けるうえで難しい面もある。梶原さんは「技術を習得したい方がいれば引き継ぎたい」と語り、鵜飼を次の世代へつなぐ思いをにじませた。



屋形船に乗せてもらったよ。

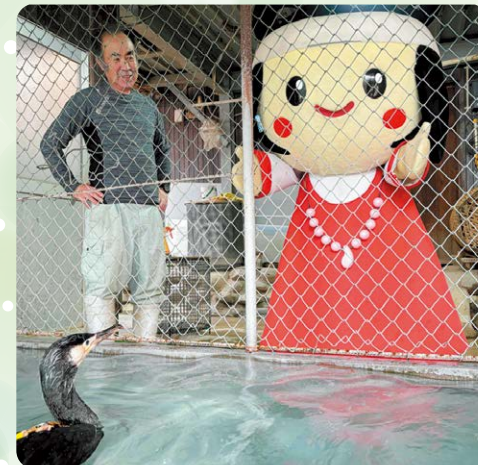


鵜が捕った魚を見せてもらったよ。

突撃 ひみこちゃん!!

筑後川の鵜飼!

日本全国で観光鵜飼が見られるのは11箇所だけ。その一つが朝倉市にあると聞いて、取材に来たよ! 鵜匠の梶原さん、よろしくお願いします。



鵜匠の梶原さんとひみこちゃんと鵜

やあ、ひみこちゃん、鵜飼小屋へようこそ。おや、さっそく気になるものを見つけたようだね。

このごわごわした紐は何ですかー?

それは手縄だよ。鵜飼をするときに、鵜を操るための道具なんだ。

かなり丈夫にできてますが、ホームセンターで買ってるんですか?

いや、これは川魚を捕るための網を、柿渋に漬けて乾かす作業を繰り返し、自分で補強しているんだ。鵜飼の道具に柿渋を使うのは、全国でも原鵜だけなんだよ。



手縄

川魚を捕る網



柿渋



柿渋は柿から作るから、きっといい香りが……。くんくん……きゃー、すごいにおい! ところで、硬い手縄を首に巻いて、鵜に負担はかからないんですか?

原鵜では、独自に締め釘(せめくぎ)を使って、鵜に負担をかけない工夫をしているよ。鵜は家族のように大切な存在だからね。

それなら安心だ。自分でも鵜飼についてもっと調べてみまーす。



締め釘(せめくぎ)